

参考資料 2

アスコルビン酸カルシウム類の試験データ一覧

投与物質 ¹	試験種類	動物種 ²
アスコルビン酸カルシウム	生殖発生毒性	ニワトリ
	遺伝毒性	復帰突然変異 (<i>in vitro</i>) 遺伝子変換 (<i>in vitro</i>)
アスコルビン酸	体内動態	ラット、ヒト(4)
	急性毒性	ラット、マウス、モルモット、ウサギ、イヌ
	反復投与毒性	ラット(3)、マウス、モルモット(3)
	生殖発生毒性	ラット(3)、マウス(3)、モルモット(4)、ハムスター
	遺伝毒性	復帰突然変異 (<i>in vitro</i>) 遺伝子変換 (<i>in vitro</i>)
	ヒトにおける知見	ヒト(10)
アスコルビン酸ナトリウム	反復投与毒性	ラット ³ 、イヌ
	発がん性	ラット ⁴ (2)
	生殖発生毒性	ラット ⁵
	遺伝毒性	復帰突然変異 (<i>in vitro</i>) 遺伝子変換 (<i>in vitro</i>)
アスコルビン酸パルミテート	反復投与毒性	ラット(2)
エリソルビン酸ナトリウム	遺伝毒性	宿主経由試験 (<i>in vitro</i>) 相互転座試験 (マウス) 優性致死試験 (ラット)

¹ 網掛けしてある物質が、今回の申請品目である。

² 動物名の後に記載する括弧内の数値は、試験データの数を示す。ただし、1つの場合は記載していない。

³ Naによる膀胱上皮の過形成が認められている。

⁴ Naによる膀胱発がんプロモーター作用が認められている。

⁵ 兎動物にNaによる膀胱上皮の過形成等が認められている。